
グループホームの団体は早く一本化しよう！

日本には認知症高齢者グループホームの組織が2つある。「全国グループホーム団体連合会・会長宮崎直人」と「日本認知症グループホーム協会・会長河崎茂子」である。北海道は一つの組織だったのだが、日本認知症グループホーム協会の北海道支部ができ、北海道も2つの組織がある。

何故2つになったかは触れないが、一つが良いのは明確であり、本人・家族・行政にとって2つの優位性も必要性もない。特に北海道や国（厚生労働省）に対しての要望活動や介護報酬改正への現場の声は一本化が求められる。

私は両方の組織に入っているが、一本化への道づくりの為でもある。1万2000程度の団体が分裂しているは駄目である。組織は会員の為にある。会員の利益には1~2ユニットで頑張っている経営者の継続を可能にすることである。現状の介護報酬では良き仲間達の離脱を招く、介護職員の働く場、地域密着型のなかで頑張っている経営者を守れない組織などいらん。

認知症の人達にとって、最良の受け皿が認知症グループホームなのであるが、その存在さえ危ういのである。

日本認知症グループホーム協会の全国大会が北海道で10月1日に開催され参加し、その一本化の必要性を確信した。11月4日には全国グループホーム団体連合会の全国大会が水戸で開催されるが参加予定である。多くの仲間と語りあってくるが・・・デイ協や老人施設協会とは考え方に違和感を持つ面もあるが、グループホームという土俵にある我々に温度差はない。

まずは、北海道から一本化しよう！

